

デザイン活動は企業の生産性向上に貢献しているか
— 企活調査、民研調査を用いた分析 —

Does design activity stimulate productivity?
- Empirical analysis using business survey and innovation survey -

川上淳之

帝京大学 経済学部

枝村一磨

科学技術・学術政策研究所

要旨

本稿は「企業活動基本調査」と「民間企業の研究活動に関する調査」の個票データを用いて、企業のデザイン活動が全要素生産性に与える影響を検証した。分析は「企業活動基本調査」のみを用いた意匠の保有の影響と、「企業活動基本調査」と「民間企業の研究活動に関する調査」のマッチングデータを用いた具体的なデザイン活動の内容がデザイン投資の効率性に与える影響の2つのアプローチをとった。意匠を保有する企業は同時に技術に関する知的財産権である特許の保有もされる傾向にあり、意匠の保有と特許の保有が生産性に与える正の影響を高めることが確認された。一方で、マッチングデータを用いた分析からは、製品差別化を目的とするデザイン戦略よりも付加価値や独創性、ブランド向上を目的する場合の方が投資の効率性は高く、外部の人材の活用やデザイナーの役員起用も効果的であることが示された。これらの結果は、デザインの持つプロダクト・イノベーションの役割に注目する Verganti (2009)等のデザイン・ドリブン・イノベーションの枠組みを定量的に評価するものである。